

旧東海道の遊行寺門前から分岐した江の島へ向かう江の島道に沿って文化財を訪ねることにします。

①藤沢山清浄光寺（遊行寺） 1325年に遊行4代吞海上人が兄でこの地の地頭だった俣野五郎景平の援助を得て、廃寺を再興し、遊行引退後の住まい、清浄光院としたのが始まり。宗祖・一遍上人が念仏を勧める賦算と信仰の喜びを踊りであらわす踊り念仏で、諸国を遍歴し、歴代聖人もこれに倣ったので、遊行上人と呼ばれ、この本山を遊行寺と呼ぶようになったという。

・梵鐘（県指定文化財） 1356年の銘がある。8代渡船上人が仏堂建造の総仕上げとして鑄造。

・敵御方供養塔（国指定史跡） 1416年関東管領・上杉氏憲が鎌倉公方・足利持氏に対して起した乱で戦死した上杉・足利両軍の人畜供養のため、当寺の15代尊恵上人が建てたもので、日本最古の赤十字精神の象徴と云われている。

・境内中央の大イチョウ（市指定天然記念物）

・江ノ島弁財天一の鳥居の袴石 旧東海道と分かれる江ノ島道の入口部分に建っていた一の鳥居の袴石が遊行寺宝物館の入口前に保存されている。

②江の島弁財天道標 かつて、東海道と分岐する江の島道の入口に置かれていたのが浮世絵などにより確認できる。江戸時代、江の島弁財天に参籠し、鍼灸術を考案した杉山検校が江の島弁財天を篤く信仰し、弁財天を参詣する人々が道に迷うことがないように設けた道標で、正面に「兪能し満道」、向かって左面に「二世安楽」、右側に「一切衆生」と彫られており、その存在が市内で12基確認され、すべて市の文化財に指定されている。

③江の島弁財天道標 遊行通りロータリーに置かれている。

④庚申堂 遊行通り（江の島道）に面して朱塗りの庚申堂が建っている。室内には木造の青面金剛（市指定文化財）が祀られている。江戸時代に道鏡の影響を受けて人間の体の中には三尸虫（さんしの虫）がいて、寝ている間に体から抜け出し、天に昇り、その人の罪を天帝に密告し、それによって人の寿命が決められるとされていた。そのため、六十日に一度巡ってくる庚申の夜は誰も眠らず、徹夜して三尸虫が抜け出さないよう見張りをする庚申待ちの信仰が生まれた。この堂は庚申待ちの宿や寄合いの場所として使われたようである。境内にも石造の庚申供養塔があり、その中に1673年銘の青面金剛の石像（市指定文化財）をみることができる。

⑤江の島弁財天道標 かつての江の島道に面している砥上公園にも江の島弁財天道標が1基置かれている。

⑥江の島弁財天道標 江の島道をさらに南下し、左折して境川を渡る手前、大源太公園にも江の島弁財天道標が1基置かれている。

⑦旧近藤邸 1925年に近藤賢二氏が別荘として建築したもので、帝国ホテル旧館を手掛けたF・R・ライトに師事したという遠藤新が設計したといい、1981年に辻堂海岸から移設されている。

⑧旧小池邸、⑨旧福原家長屋門 ともに市の文化財に指定され、公園内に移設されている、旧小池邸は名主を務めた旧家が1841年に建築した寄棟造り、茅葺の古民家。旧福原家長屋門は江戸時代後期の建物でやはり名主を務めた旧家の長屋門。

⑩大源太の辻の庚申供養塔 旧江の島道筋に道標を兼ねた庚申供養塔がある。「右かまくら、左藤沢」とある。

⑪馬喰橋 小さな川を渡る橋。昔源頼朝が橋のない川に馬の鞍を架けて渡ったという伝説から馬鞍橋といったとか。この橋は片瀬から流れ来る水で過去、何度も流され、そのたびに江ノ島へ向かう人は難儀した所という。

⑫岩屋不動尊 やぐらの中に不動尊像が安置されている。ここは地元出身の快祐上人が生きたまま岩屋に入って成仏（即身成仏）したところと云われている。

⑬江の島弁財天道標 片瀬小学校の校庭隅に庚申供養塔とともに江の島弁財天道標が安置されている。本日5基目の弁財天道標である。

⑭片瀬山泉蔵寺 高野山真言宗で鎌倉北条3代執権・北条泰時が創建という。山門脇に庚申塔6基、馬頭観音

像 1 基が並んでいる。境内に相模國準四国八十八箇所めぐりの 4 3 番弘法大師像がある。

⑮諏訪神社下社 泉蔵寺の先で江の島道を離れて現国道 467 号線に出た所に鎮座。723 年に信州諏訪大社を勧請した社で、諏訪大社から他郷へ分霊した最古の例とされている諏訪神社。神座を二座に分け、下社には妃神・八坂刀売命を、健御名方命は上社に祀っている。

⑯諏訪神社上社 また、江の島道に戻ると長い石段の上に上社が鎮座。

⑰庚申供養塔 享保 4 年（1719 年）の銘がある青面金剛の庚申供養塔。

⑱寶盛山密蔵寺 鎌倉時代創建の真言宗の古刹。相模國準四国八十八箇所めぐりの 17 番弘法大師像を安置している。また、境内には 1918 年頃から八十八体の弘法大師石像を造り、新四国霊場を開創しようとしたが、関東大震災で中断し、三十体ほどの弘法大師像が境内に並んでいる。

⑲江の島弁財天道標 密蔵院前の分かれ道に江ノ島弁財天道標がある。左鎌倉道、右江の島道という道標があり、右へすすむ。

⑳一遍上人地藏堂跡 時宗の開祖・一遍上人が鎌倉に遊行のため入ろうとしたが、幕府によって阻止されたため、鎌倉入りを諦め、ここ片瀬で布教することにした。踊り念仏を唱えた念仏堂跡である。今は杭が立つだけであるが、その様子は遊行寺宝物館が所蔵する国宝「一遍聖絵」で見ることができる。

㉑江の島弁財天道標 江の島道に面して市民センターの斜め前にある。通称、「西行もどり松」と云われ、道標の背後の面に西行戻り松と彫られ、その背面を前にして置かれている。小さな松の樹が添えられているが、とても江戸時代のものとは思えない。西行法師が鎌倉への通りすがりに道端の松の枝ぶりに目をとめ、都恋しさのあまり、都の方を見返って、その枝を都の方角に捻じ曲げ、見返りの松といったといわれるが、このような事例は至るところにあるようである。

㉒寛文庚申供養塔 三猿像が彫られた台座に乗った 1661 年の銘がある庚申供養塔。市の文化財に指定されている。

㉓龍口山常立寺 日蓮宗。付近には処刑場があり、この辺りは埋葬地であった。処刑された者を弔うため誰姿森（タガスノモリ）と呼ばれ、建てられた寺。元寇の翌年、国書を携えて訪れた国使 5 名もこの地で処刑された。境内にその塚と五輪塔がある。五輪塔には青い布が巻かれている。（青はモンゴルでは英雄を意味する色といわれ、参拝したモンゴル出身の力士によって供養されたという）

㉔龍口神社跡地 深沢の地の池に棲み悪行を働いていた五頭龍が、海中から江の島が盛り上がり、天から美しい天女が舞い降り、五頭龍は天女（江の島弁財天）の靈感に触れ改心。以来村人の加護を誓い、龍の山となり、口にあたるあたりに祀られたのが今の跡地。しかし村人からは村の飛び地に社を構えていたので、関東大震災を契機として龍の山の洞にあたる現在地（鎌倉市津）に遷座したとある。

㉕寂光山龍口寺 竜の口の刑場跡地である。立正安国論を幕府に建白した日蓮聖人は幕府から罪を問われ、1271 年、ここ竜の口の刑場で斬罪に処せられようとしたとき、霊験が起これ一命を取り留めたという。龍口寺は日蓮の弟子・日法が龍の口法難霊蹟として堂宇を建て、祖師増と敷き皮を祀ったのが始まり。本格的な寺として格式を整えたのは腰越・津の島村采女が 1601 年に土地を寄進して以来という。1886 年までは専任の住職を置かず「片瀬八ヶ寺」が輪番で管理したという。境内には龍の口法難の際、日蓮が閉じ込められていた土牢、島村采女の墓、信州松代藩の藩邸を移設したという大書院、日蓮が足元に敷いていた敷皮が安置されているので敷皮堂ともいわれる本堂、などがある。

㉖江の島弁財天道標 洲鼻通りの中頃に建っている。平成 10 年に付近の道路工事現場から発掘されたもの。発掘作業に当たって、建設機械により頭部の一部が損なわれたという。これで今日見た弁財天道標は全部で 8 基となった。（残りは、江の島神社、法照寺、白旗神社、個人住宅庭内の 4 基。市外では鎌倉市腰越支所に 1 基）

8 月 25 日作成、10 月 24 日修正、

注) **太字**は文化財に指定されているもの